

よくあるご質問

Q. この検査では何がわかるのですか？

1度の採血で4つの消化器系“がん”が体内にあるのか無いのかを同時に判別します。
早期発見が難しいとされる「膵臓がん・胆道がん」、罹患数が多い「胃がん・大腸がん」を遺伝子レベルでチェックします。

Q. 個人や家族の遺伝子情報が他人に知られる危険性はありますか？

本検査によって、ご本人やご家族を特定するような遺伝子情報が知られる事はありません。

Q. 「がんになりやすい体質」が分かるのですか？

いいえ。この検査は、採血時における“がん”の有無を判別する検査です。
「がんになりやすい体質」かどうかを判別するリスク検査とは異なります。

Q. 検査はどのように行われますか？

本検査を取り扱っている医療機関にご予約・ご来院いただき、採血(5mL)していただきます。
採取した血液は専門の検査機関にて検査を行い、3～4週間ほどで判定結果が出ます。

Q. 検査を受ける際に事前準備などはありますか？

事前の食事制限や薬剤の投与などは必要ありません。

Q. 検査を受ける際の注意事項はありますか？

病歴や投薬中の薬によって正しい結果が得られない場合がございます。詳しくは医師までお問合せください。

Q. 医療機関以外、自宅などで採血は出来ないのですか？

主に以下の3つの理由から医療機関のみでの受診となります。

- ・本検査の採血は法令で定められた医療行為であること。
- ・検査結果に影響を及ぼしかねない血液(検体)の保存状態の問題。
- ・感染症などの安全性の問題。

Q. 検査結果はどのくらい信頼できますか？

臨床研究では、消化器系がんに対する本検査の感度と特異度はいずれも90%以上でした。

【参考論文】

Differential gene expression profiling in blood from patients with digestive system cancers.

Q. 結果が陰性でしたが、将来的にがんが発病する可能性はないと認識して良いのでしょうか？

この検査は採血時におけるがんの有無を判別する検査です。したがって将来の“がん”の発症を予測するものではありません。
医師とご相談の上、概ね1年毎の定期的な検査をおすすめいたします。

Q. 結果が陽性だった場合はどうしたらいいのでしょうか？

検査結果を参考に医師と相談の上、精密検査を受けられる事をおすすめいたします。

Q. 既往歴や服用中の薬など結果に影響を及ぼす可能性があるものはありますか？

※アレルギーのある食べ物を除き、検査前の食事制限はございません。

● 検査への影響が懸念される疾患(既往歴)

- 肝炎ウイルス感染
- 自己免疫疾患
- 喘息・アレルギーなど炎症性疾患急性期
- 萎縮性胃炎、慢性膵炎
- 胃腺腫、大腸ポリープ、胆嚢ポリープ
- 腎嚢胞、肝嚢胞、胆嚢線筋腫症
- がんの治療歴(部位不問)*
- 妊娠中および流産直後

*完治してから5年経過した方は検査を受けることができます。

● 検査結果への影響が懸念される投薬中の薬剤

- 副腎皮質ホルモン
- インターフェロン製剤
- 免疫グロブリン製剤
- 生物学的製剤(インフリキシマブなど)
- ワクチン(接種直後)

Q. 遺伝子検査のようなリスク検査との違いは何でしょうか？

先天的なDNA配列を調べて、将来の罹患リスクを評価する方法が一般的な遺伝子検査です。一方、マイクロアレイ血液検査は、体内に生じているがん細胞を判定するためのスクリーニング検査です。これは、免疫細胞の防御反応に由来して発現するmRNAを検査対象としているためです。よって、検査結果にはDNA情報などの個人を特定される情報は含まれません。

Q. 腫瘍マーカーとの違いはなんでしょうか？

腫瘍マーカーは主にがん診断の補助的な検査又はフォローアップの検査として使用されています。がん細胞が作り出すタンパク質などを検査対象するものですが、がんがある程度の大きさにならないと検出が難しいとされており、また精度の問題も指摘されています。マイクロアレイ血液検査は早期がんに対しても高い精度を有するため、スクリーニング検査に適しており、この点が腫瘍マーカーとの違いであるといえます。

Q. この検査を受ける事で他の検査を省くことはできますか？また、他の検査との効率的な組み合わせはありますか？

マイクロアレイ血液検査は高い精度を有し、採血のみで早期がんを臓器ごと(膵臓、胆道、胃・大腸)に判定できる、受診者様の負担が少ない検査です。

しかしながら、最近開発された新しい検査方法のため、症例が少なく、がんの種類によってはX線や内視鏡検査、PET、CT、MRIで発見できる場合もあります。また、効率的な組み合わせも確立しておりませんので、機会があればこれらと併せて総合的に診断する事をおすすめします。

Q. 検査対象としている消化器系以外のがんの判別は可能でしょうか？

これまでの臨床研究は検査対象としている4種類の消化器系がんに対して行われたもので、それ以外のがんに関するデータはございません。なお、対象外のがんに陽性反応を示す可能性はありますが、部位を特定する事はできません。

Q. 判定結果が「陽性」や「陰性(境界域)」の場合はどのように受診勧奨されますか？

「陽性」の場合は、他の精密検査を受診していただくよう検査結果報告書に記載しております。「陰性(境界域)」の場合は、がん以外の疾患(特に免疫系の疾患)や服用している薬剤の影響も考えられますので、他の検査結果も参考にしながら総合的に判断されるよう推奨しております。

Q. 採血や検体の保管など検査自体を行う上での注意事項はありますか？

採血には弊社が提供する専用の採血管をご使用下さい。また、検体の保管は室温が基本ですが、発送が翌日以降になる場合は必ず2時間室温で静置後、搬送業者が回収するまでは冷蔵保存して下さい。その他、詳細につきましては弊社営業担当が配布する「マイクロアレイ血液検査 ご利用の手引き」をご参照ください。

その他ご不明点がございましたらお気軽にお問い合わせください。

<https://kplab.jp>

